

# 『今が、歴史を創る時』 個々人がつむじ風を起こそう

## 第27回 有害物質の処理方法は、1. 分解して無害化する

## 2. 安全なレベルへ希釈化する 3. 濃縮して埋める 永田 隆一

半導体業界では、加工用に多くの有害材料を使用します。その使用済み材料の処理方法は3種類です。

1. 分解して、無害化する
2. 安全なレベルに希釈して放出
3. 濃縮して埋める

さらに、最近では、揮発性有機溶剤（VOC）も分解処理をして、においの問題も解決されています。

### 《原子力発電所の処理》

日本は、アメリカ・フランスに次いで、原子力発電所を54基保有しています。そして、使用済み核燃料の処理方法が未定のままです。

先ごろ、フィンランドが、使用済み核燃料の処理施設を公表しました。地盤が安定な地下500mで、10万年に耐えうる設計で、氷河期が来るとも想定済みとのことです。

原発の廃炉には、40年が必要とのことですが、廃炉後、立入禁止を、10万年続ける必要があるのです。

燃料と施設を10万年、安全に隔離しなければならないことを、100年生きられない現代人が判断していることに、筆者は滑稽さを禁じえません。10万年後の、3000世代後の子孫に、どの言語で、立入禁止をどう説明するのでありましょう。

原子力の使用済み燃料と施設は、濃縮して10万年隔離するしか方法がありません。今から10万年前は、現

生人類の祖先やネアンデルタール人が生息していた時代です。現代人の時間感覚では、10万年は永遠です。永遠に、施設の安全保安体制を継続することや、危険の周知徹底の広報・教育、さらに、テロリスト対策等を配慮しなければなりません。そう考えますと、原発再稼働に反対して、首相官邸の前でデモをする人々は、正しいと思わざるをえません。

### 《国の借金》

日本政府は、毎年50兆円の国債発行を続けております。国債残高は、2011年に900兆円を超えました。また、12年6月の時点で、外国の保有比率が初めて8%を超えました。

900兆円の利子は、1%弱ゆえ9兆円。仮に、国債の引き受け手がいなくなったら、金利を上げざるを得ません。たとえば、金利5%で、45兆円の利子となり、日本国は、債務不履行のデフォルトとなるリスクに直面いたします。

国債の処理方法は、希釈化するしかありません。そのためには、インフレ誘導か、日銀が、お金を大量に増刷するしかございません。

しかし、現在の政府どちらの対策も採りません。ゆえに、現在のスーパー円高とデフレ経済は、ますます厳しい方向へ進んでおります。そして、政府は、増税で対応するため

に、消費税増税を決定しました。デフレ基調と経済成長率マイナス時の増税が、さらなる不景気を引っ張ることは、歴史が証明しております。

### 《閉塞感と怠け癖》

製造業の大手企業の方々と接しますと、円高や、電気料金の値上げ等を理由にあげられて、現状の閉塞感を得々と説明される時があります。そういったとき『この方は、また、怠け癖が出てきたな』と、感じてしまいます。こういった方々は、とても常識があり優秀な方ですが、『昔を振り向いてばかり……』と感じてしまいます。そこに、萌える草食系を感じてしまいます。

かたや、中小企業やベンチャー企業の、経営者や従業員の方々と接しますと『良く働くなあ、信念みたいなものを感じるな、すばらしい、自ら考えて、自ら行動している』燃える肉食系を見つけた気になります。

閉塞感や怠け癖という、いわば有害物質の処理方法には、分解、希釈、濃縮は役に立ちそうもありません。明確な危機感の共有が重要であり、そこから『苦し紛れの知恵』がひらめき、自らの行動と努力が、結果につながるように思います。この有害物質には、『切羽詰った危機感』の共有こそが、処方箋であると、最近気づかされました。（毎月連載）